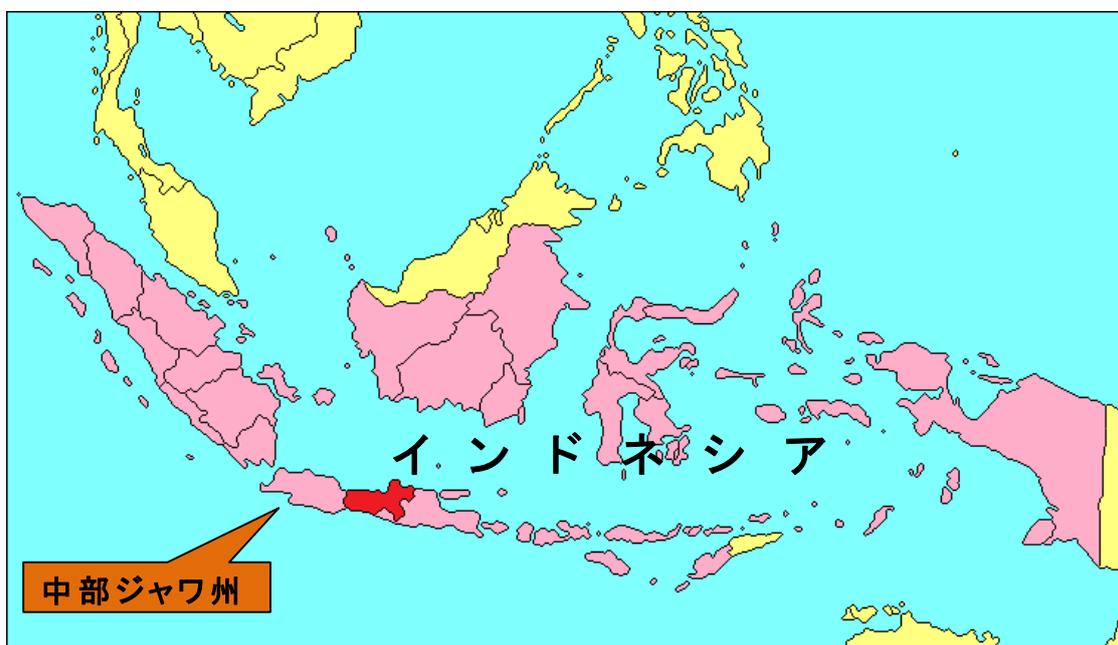


インドネシアでチクングニア熱が発生

2011年10月23日 ProMED 情報 (Pontionak Post)



少なくとも94名のチクングニア熱患者(大人と5歳以下の子供)が報告されました。患者は中部ジャワ州のSungan Durian村、Ambawang地区およびAおよびB地区のKuala Kuala村からで、近いうちに患者数が数百名に達すると予測されています。

チクングニア熱は、感冒症状とともに結膜炎を通常伴い、子供の場合は熱性けいれんがよくみられます。年長の子供の場合は筋肉痛及び関節痛に続いて発熱し、リンパ節の腫脹も見られます。成人では関節痛と筋肉痛が主体で、痛みが激しいと痛みのため歩けなくなります。時に吐き気がおこり、嘔吐することもあります。一般にデング熱と違い、子供の場合は3日ほどで解熱し、出血症状やショックに至る例は少ないようです。

【ProMED 調整者】

この記事は、中部ジャワ州における重大な局所的チクングニア熱の発生と思われる。これまでに死亡患者は報告されていないのは驚くことではなく、すべてのチクングニア熱では死亡患者はみられません。しかし、関節痛は回復期の患者で数週から数ヶ月続き歩行が困難になります。最近のインドネシアの流行は、2010年1～2月に発生し、ランブン Lampung 州だけで約20,000名が感染しました。